

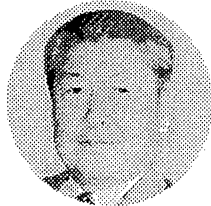
天彦産業

高珪素ステンレス鋼を発売

年商4億円目指す

エス・アイ社から独占販売権

特殊鋼流通の天彦産業(本社・大阪市住之江区、社長・樋口克彦氏)は、高強度、高硬度、耐食性、耐熱性など複数の特性を併せ持つ高珪素ステンレス鋼、シリコロイ鋼の本格販売を始めた。同社はシリコロイ鋼の用途特許を持つ(一部は出願中)エス・アイ・テクノ(本社・兵庫県川辺郡猪名川町、代表・清水義之氏)と昨年10月に業務提携をし独占販売権を得ている。3~4年後には年間四億円の売上げを目指していく。



樋口社長

シリコロイ鋼は硬度を得るため鉄合金に三・五%以上の珪素を含有させると同時に炭素を〇・〇二%以下に抑えることとニッケル、マンガン、クロムを適量配合することで脆化を克服、強靱性、耐熱

性、耐食性、耐摩耗性、高硬度などの特性を兼ね備えている。このシリコロイ鋼は故太田雅一関西大学名誉教授が開発、その教え子の清水孝晏氏が1976年に日本シリコロイ工業を興し販売を開始した(製造は東北特殊鋼に委託)。その後、清水氏の息子義之氏が引き継ぎ01年にエス・アイ・テクノを創業、新たな販路を模索していた。シリコロイ鋼には高

強度用のA2、高硬度用のXV1、耐食用のB2、耐熱用のDがある。A2、XV1は析出硬化型で強靱性、高硬度ではSUS630

を越え、耐食性でもマルテンサイト系、フェライト系より良好でトータルバランスに優れている。B2、Dはオーステナイト、フェライトの二層ステンレス鋼でオーステナイト系の問題点である粒界腐食、応力腐食割れ性、耐かじり、焼付性、高温での耐酸化性などを

強化している。使用環境の厳しい鉄鋼メーカーの連続製造用ローラーに採用されているほか船外機インペラー、橋脚の支承装置に使用されている。同社では丸棒、線材、鍛造用素材を在庫、組織横断的なプロジェクトチームを発足させ拡販に取り組んでいる。すでに企

業の研究、技術開発部門などから問い合わせがあり、部品の長寿命化、軽量化を目指す産業、化学プラント、自動車、半導体など各方面の需要増が期待できる。樋口社長は「シリコロイを切り口に素材だけでなく加工も含めた技術商社を目指していく」としている。